

リズムでつながるドラムサークル体験講座の実施

事業代表者教育学部・教授・長谷川万由美

1. 事業の目的・意義

アフリカンドラムを中心とした打楽器を輪になって演奏することで、自然とリズムのアンサンブルや仲間づくりができるドラムサークルに関心が高まっている。リズムを通じたコミュニケーションを促進することで、自己理解、他者理解を促進するドラムサークルを実施する。世界中の打楽器（ドラム・パーカッション）を輪（サークル）になって即興で叩くことで、一つの音楽を作っていく参加型の音楽表現活動である。音楽面としては拍感・リズム感・アンサンブル感、即興的表現力、合わせる力が向上し、楽器の奏法が自然と身につく。また心と体の面に関しては、協調性、自己表現力、コミュニケーション能力が身につく他、ドラムを叩くことによりストレスが発散される効果も期待できる。

そこで本事業では、このような効果が期待できるドラムサークルとそのドラムサークルで使う楽器を理解するための講義とを組み合わせた「叩こう、鳴らそう、世界の楽器」を小中学生とその保護者を対象として行うこととし、とちぎ子どもの未来創造大学の講座として実施した。とちぎ子どもの未来創造大学とは、栃木県教育委員会が学校における学習に加えて、県内の高等教育機関や民間企業等と連携しながら、子どもたちが「本物」に触れる学習機会を提供することを目的に企画している事業である。また、実施にあたっては宇都宮大学公開講座「音楽を通じた地域づくり-ドラムサークルファシリテーションの基礎-」の受講生が中心となって結成したとちぎドラムサークルのメンバーと公開講座の講師を務める三原典子氏(DC-LAB 主宰)の協力を得た。

2. 講座の内容

「叩こう、鳴らそう、世界の楽器」は今年度が

初めての開講だったため、まず講座の内容の検討を行ったが、実施の際は、会場の広さと形状、参加者の人数と構成(年齢、親と一緒にどうかなど)によって、講座の進め方は変更する必要があった。

(1) 楽器の理解

ドラムサークルで用いる楽器の理解を深めてもらうことを目的として、世界地図を使って世界の打楽器を説明することを考えた。またそもそも「音楽」とは何かを考えさせるために、音が聞こえる人間の器官のメカニズムについても講義を行った。

楽器についての講義のあと、説明した楽器などに実際に触れて、自由に音を出してもらう時間を作った。子どもだけでなく大人も夢中になっていきいきと様々な初めてみる楽器に挑戦していた。出前講座に行った先の教員等からは「学校の授業でもここまでそろえることはできまい」「学校や家庭だったらこんなに自由に演奏させるのは勇気がいる」など授業では得られない楽器との触れ合いがこの講座に参加することでできていることがわかった。

(2) ドラムサークル

ドラムサークルは集中を高め、気分が高揚する効果があるが、子どもの場合、盛り上がりすぎて違う活動にスムーズに移行できない、小さな子どもだち疲れてしまい体力が残っていないなどの問題も生ずることがある。そのため、ドラムサークルを講座のどの部分に持ってくるのかは、そのときの会場の様子や参加者の様子により臨機応変に対応した。

当初の予定としては、まず20分程度のドラムサークルをウォーミングアップとアイスブレイクを目的として行い、その後に楽器講座、休憩をはさんで長めのドラムサークルと考えていた。

しかし、会場が大きくドラムサークルと距離があったり、逆に会場が狭くてドラムと講義を聞く場所が近かったりした場合には、前半を講義のみ、後半にドラムサークルという構成としたところもあった。

ドラムサークルのファシリテーターはとちぎドラムサークルのメンバーと DC-LAB の三原典子氏と筆者とで分担して行うこととした。

3. 事業の進捗状況

今年度は大学を会場とした自主的な開催一回の他、県教育委員会を通じて出前講座を三回実施した。各回の概要は以下の通りである。

表 1 講座「世界の楽器」開催状況

実施日	開催場所	参加者	主催
8/6※1 図 3	高根沢町民 ホール	12 組	高根沢町
8/7※1 図 4	那須町文化 センター	13 組	那須町
8/22※1 図 5	那須塩原市 西那須野公 民館	2 組 ※2	那須塩原市
10/13 図 6	宇都宮大学 大学会館	13 組	宇都宮大学

※1 は出前講座、※2 申込者に加えて会場にある学童保育を利用する児童 15 名も参加した。

4. 事業の成果

ドラムサークルは以前より実施していたが、今回、子ども向けに音楽や楽器についての講義を行うこととなったため、新しく子ども向け教材を作成したことが本事業の成果として挙げられる。

(1) 音とは何か

学校でもなじみがある楽器にあらためて興味を持ってもらうために、まず楽器が奏でる音に注目をした。音がなぜ聞こえるのかのメカニズムにつ

いて、「音の正体は物体(発音体)の振動!!音がでるものは震えている」と説明したのち、耳の構造や音が空気を伝わりどのように音として認知されるかのメカニズムについて説明した。

また人間が音をいつからどのように認知し、また音楽というものを楽しんでいるのかについて説明した。胎児や乳幼児の音楽認知に関する研究は昨今進んでおり、そのような研究の成果を子どもたちにわかりやすく説明した。

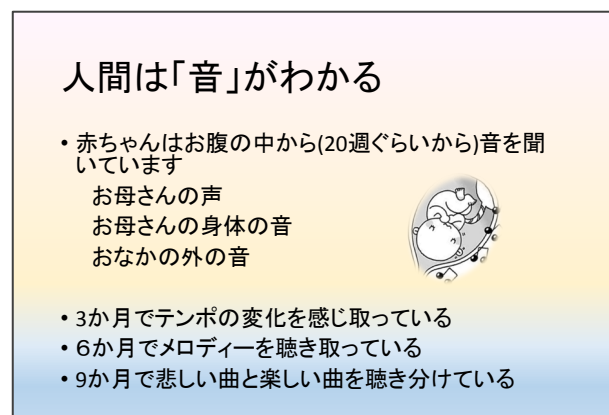


図 1 音や音楽の認知に関するスライド

(2) 楽器の種類

楽器の種類としてまずは音を出す原理に注目した分け方(体鳴楽器、膜鳴楽器、弦鳴楽器、気鳴楽器、電鳴楽器)と授業などで使う楽器の分類(打楽器、弦楽器、管楽器、金管楽器、木管楽器、鍵盤楽器、擬音楽器)を紹介し、それぞれ該当する楽器を鳴らしたりしてその原理などについて説明した。

(3) 世界の打楽器

ドラム・サークルにつなげるため打楽器に焦点をあてて、七大陸分類を参考にヨーロッパ、アフリカ、オーストラリア、南アメリカ、北アメリカ、アジアの順で各地の楽器を紹介した(図 2、表 2)。実物を持っているものについてはその場で演奏して紹介し、実物がないものについては、演奏の様子の映像を流すなどして、楽器の理解が深まるようにした。合わせて、その楽器や地域にまつわるエピソードを紹介して関心が深まるようにした。



図 2 楽器を紹介するスライド(南アメリカ)

表 2 紹介した主な楽器

地域	紹介した楽器
ヨーロッパ	フラメンコ・カスタネット、ハンドパン
アフリカ	フレームドラム、タブラッカ、ジャンベ、アシーコ
オーストラリア	クラベス
南アメリカ	クイーカ、スルド、タンタン、カシシ、カホーン、ボンゴ、コンガ、スチールドラム
北アメリカ	アメリカンネイティブドラム
アジア	トルン、アンクルン、タブラ、ディンシャ、シンギングボール

5. 今後の展望

平成 31 年度も同様の講座を実施する予定でいる。また今年の様子から、公民館の自主事業の親子教室で同様の内容を実施して欲しいとの依頼が県内よりあった。徐々にではあるが講座が浸透してきている。今後も工夫を重ねながら、展開していきたい。

また講座の内容を吟味する中から、このテーマから様々な科目と関連させて展開させることが可能ではないかと考えるようになった。楽器ということからいけば、まずは音楽だが、「世界の」というところでは地理、その変遷に注目させれば歴史、音そのものや音が聞こえるというところに焦点をあてれば物理や生物、世界中の楽器という捉え方をすればより世界をグローバルに捉えることも可能である。アクティブラーニングを通した総合的な学習の素材としての可能性を持っていると思われるので、今後は小中学校で使える教材へと展開していきたいと考える。



図 3 高根沢町民ホールでのドラムサークル



図 4 那須町(世界の楽器講義編の様子)



図 5 思い思いに楽器に親しむ(那須塩原市)



図 6 大学自主企画の様子